



winter

topics & contents

公益社団法人 NACS

2024 年 1 月発行 Vol. 4 通算No.204

発行:公益社団法人 NACS 中部支部 会員活動委員会

名古屋市中村区名駅 4-5-28 桜通豊田ビル 18 階

学校法人 産能大学 中部事業センター内

NACS 中部支部 NEWS

<http://chuubu.nacs.or.jp/>

セントラル C+は

右の QR コードから →→

♪バックナンバーも

見られます♪



目次

- P2 ***上手に伝える「お断り&クーリングオフ
スタンプ」が出来ました
- P3 ***新しい研究会を立ち上げませんか
- P4 ***第 3 回研修会「食料自給と安全保障」を
開催しました
- P5 ***消費生活アドバイザー 2 次試験相談会を
開催しました
- P6 ***『NACS 標準化セミナー in 中部大学』を
開催しました！
- P7 ***ADCS 研究会 活動報告
でんでん村様 ご訪問
- P8 ***ADCS 研究会 2023. 11. 18 名古屋市消費
生活フェア出展
- P9 ***北陸分科会活動報告「今年度 2 回目の定
例会」を実施しました
- P10 ***岐阜分科会活動報告 ~全国発酵食品サ
ミット in えなに参加して



皆様のご多幸をお祈り申し上げます



HP もご覧ください。 [NACS 中部支部](#)

会員ページへは

ユーザー名 nacs-chuubu

パスワード chuubu-7ken

代議員選挙結果

第 8 回代議員選挙での支部当選者(定員
9 名)が下記の通り確定いたしました。

(敬称略、五十音順)

陰地康行 河合康成 北川住江 清水美和子
瀬古昇一 橘宏和 星野不二雄 山岡美須永
山田圭子

会員情報

中部支部会員 267 名 (12 月末現在)

愛知 158、静岡 40、三重 26、岐阜 21、
北陸 20、他 2

++上手に伝える!「お断り&クーリングオフスタンプ」が出来ました!!

副業詐欺、闇バイト、マルチ・マルチまがいの勧誘、怪しい儲け話 etc...

昨今は様々な怪しい勧誘が SNS 経由で入ってきます。「うまい話には気を付けよう!」と思ってはいても、キャッチーな誘いに興味を惹かれて一度、関わると、さあ大変!

グイグイと迫ってくる独特の勧誘に、断わるタイミングが掴めなかったり、返信に気を遣ってしまったり。時には、電話がかかってきたり、呼び出されたりで意図しない約束や契約をして後悔したり...。消費生活の相談現場ではそんな相談が多く寄せられています。

この度、NACS ではそんな、ヒヤッとするようなシーンでのお助けツールとなる「お断り&クーリングオフスタンプ」を作成致しました。

これ一つで、迫ってくる勧誘の流れに水を差したり、お断りしたり、場合によってはクーリングオフができてしまうNACSオリジナルの LINE スタンプです。(本当は無料スタンプを目指していたのですが、無料スタンプの配布をするには何千万ものお金を LINE に支払わなくては作成できず、有償でダウンロードしていただくなくてはならないのが心苦しいところです。)

このスタンプ、意外といろんな使い方ができて便利です。是非、会員の皆様も、消費者の味方となるこの「機能系スタンプ」をスマホの中にお守りとして備えてみてください。そして、「こんなシーンに重宝した」「こんなふうに使ってみた!」の体験談があれば是非、教えてください。特に新成人やスマホを使い始めた方たちにプレゼントされるものお勧めです。賢く、かわいく! お断り上手な消費者に役立つスタンプとして活用してみてください。

副支部長 北川 住江

****LINE スタンプのダウンロードはこちら****



※通信費のほかにコンテンツ料金がかかります※

[上手に伝えよう!お断り&クーリングオフ - LINE スタンプ | LINE STORE](https://line.me/S/sticker/23929450) URL <https://line.me/S/sticker/23929450>

*詳しくは HP をご覧ください。[News-releaseLINE-stamp\)2023.9.25.pdf \(nacs.or.jp\)](#)

~こんなスタンプたちです~



++ 新しい研究会を設立しませんか

現在中部支部では研究会 ACT、ADCS 研究会、食生活研究会と3つの研究会が自主的に活動しています。これまでもセントラルC+で活動内容をお伝えしていますように、それぞれが活動成果を地域社会に発信しています。また、研究会活動は会員にとって自己実現の場のひとつにもなっているのではないのでしょうか。

「大人のクラブ活動」のノリで会員仲間と研究会を立ち上げませんか！

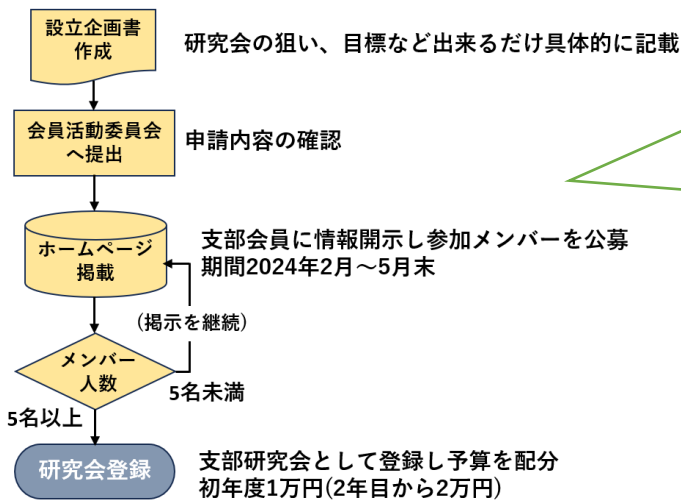
研究会設立の要件は支部内規の中で以下のようになっていますが、2024年度の活動開始を前提に支部として参加メンバーの募集等の設立に向けた支援をおこないます。

研究会設立（内規）抜粋

- (1) 5名以上のNACS正会員で構成されている
- (2) 営利目的ではなく、消費者諸問題の調査・研究をおこない、消費者啓発への貢献を目的としている
- (3) 研究会設立計画書が提出されている

なお、**計画書作成、申請等の詳細は支部ホームページの会員ページをご確認ください。**

<研究会登録までの流れ>



・・・とありますが、
まずはお気軽にお尋ねください。

連絡先: 会員活動委員会 山中
メール; kaiin@chuubu.nacs.or.jp



食生活研究会を立ち上げたときの話 平成11年 …中島佳子さん保管資料より

・発足のきっかけ

消費者目線での表示の研究をしてみたいとの思いがあり、支部大会(1999/6)の「食生活」交流会の場で多くの興味深い内容や活動テーマのアイデアを頂き、設立企画書を提出しました。その後、広報誌(1999/7)を通じメンバー募集をおこない、12名のメンバーから始めました。

・活動の狙い

消費生活アドバイザーとして、広く食生活に役立つ情報である「消費者に分かり易く、親切な表示とは何か」を検討することとしました。加工食品の表示は、読みやすく内容がしっかり書かれている業界とそうでない業界があり、業界へ働きかけができれば面白いのではないかと。また、同じ使用原料と配合率でも業界(例:飲料では、乳飲料や清涼飲料、医薬品等)によって価格が異なるので、新たな発見もあると思いました。なお、活動目標は「食品表示の規制と、実際の商品表示の現状を把握し、適切な表示についての提言を行う」としました。

支部長 星野 不二雄

++ 第3回研修会「食料自給と安全保障」を開催しました。

11月25日(土) 15:00~16:30、名古屋市消費生活センター消費者研修室で、元愛知県衛生研究所 衛生化学部長の猪飼誉友氏を講師にお招きし、「食の安全保障」という視点から、健康で豊かな食生活を維持するための課題をお話いただきました。

参加者(受講者)は20名、貴重な対面での研修会で、「久しぶり!」「元気だった?」という声も聞こえてきました。

産業革命以降、世界人口は爆発的に増え続けています。これを養うためには今後も食料増産が必須です。世界全体で見ると食料そのものは不足していないものの、一部の国に偏在していたり、食用以外にバイオ燃料として使われたりすることもある、食料が必要なところに適切に届いていない状況となっています。

食料は人命に関わるものであり、輸出国は輸入国に対し優位に立ち、時として紛争の種となることもあります。わが国の食料自給率はカロリーベースで37%と極めて低く、食品を輸入に頼らざるを得ず、他の食料輸入国との「奪い合い」、また島国である故にフードマイレージの値も大きくなっています。さらに異常気象や国際紛争など、多くのリスクを抱えています。

今回の研修では、「ご飯を一日にもう一口余分に食べると食料自給率が1%上昇する、地元旬の野菜を積極的に食べることが食料自給率を上げる」「森林・山林以外で二毛作ができる土地では、芋を裏作にする」など、具体的に何をどうすれば食料自給率が上昇するのかを示され、斬新でした。

講義後には多くの質問が飛び交い、研修会終了後も「稲でバイオエタノールは作れないのか、先生に聞いてみたい」など疑問が尽きることもない有意義な学びの場となりました。

研修委員会 会員活動委員会

(受講者アンケートよりフリーコメントを一部抜粋)

- ・大まかなデータは目にしたことが有るが、考え方や実際に自給率を上げる為に必要な面積を説明頂いたので、自給率を上げることがいかに難しいか腑に落ちた。
- ・昔イギリス etc の飢饉でいもを食べていたかと思うので、いも中心になるのは現実的かと思った。
- ・フードマイレージも大きな問題だなと感じました。
- ・外圧(輸入品の高騰)によって自給率が上がる側にいくしかないかなあと感じました。
- ・各国の人口や土地の状況表から、人口減少が必ずしも悲観すべき事ではないかと思いました。
- ・ゲノムについての先生の見解がとてもうれしかった。
- ・量だけでなく質も心配です。
- ・食が体をつくる。健康が他国任せになっている。
- ・ゲノムの話もまた聞いてみたい。
- ・揚げ油が食品ロスになることが分かった。



++消費生活アドバイザー2次試験相談会を開催しました

10月29日(日)14時から16時、NACS中部支部主催の消費生活アドバイザー2次試験相談会を開催しました。今年は、昨年に引き続き、名古屋での面着で開催し、10名の方にご参加いただきました。中部支部会員からはスタッフとして6名が参加しました。

相談会のプログラムは、

- ①小論文のワンポイント解説
- ②出題傾向分析と注目すべきトピック解説
- ③面接でのワンポイント解説と模擬面接

とし、開催時間は昨年と同様、約2時間としました。

開催に当たり、スタッフの中部支部会員全員が協力し、約2か月前から準備を開始し、担当分担、資料の作成に加えて、今年からの変化点として、HPで二次試験相談会の案内をしたため、多少戸惑ったこともありましたが、無事開催することができました。

受講者の方にアンケートを依頼した結果、全員から回答をいただきました。

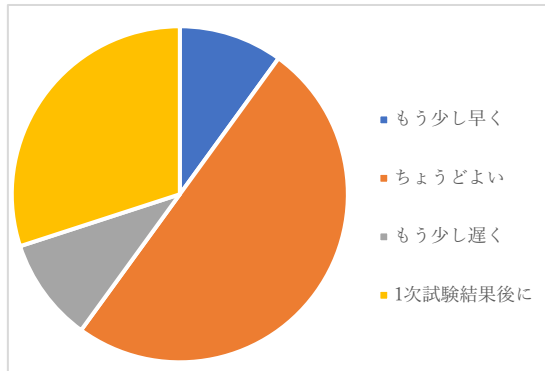


図1. 開催時期

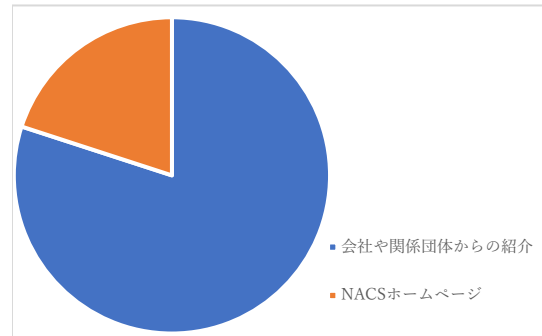


図2. 本相談会を知ったきっかけ

その結果の概略としては、以下のようになりました。

- ① 開催時期／講義時間について：約40%の方から「もう少し遅く／1次試験後が良い」という意見が昨年以上に多く見られた（図1）
- ② プログラム全てにおいて約90%以上の方から理解できたとの感想があった。（小論文・面接）
- ③ フリーコメントとしては、“おおむね勉強の仕方の参考になった”、“面接体験は良い経験になった”等とポジティブなご意見をいただきました。

相談会運営での反省点としては、論文に関するパートでは、各登壇者の説明が多かったため、もっと受講者に対して質問する等、相互のやり取りがあっても良かったかなと思っています。

また、相談会の運営に対する課題としては、本相談会を知ったきっかけとして“HPを見て”という方が全体の2割程度（図2）とかなり低く、本相談会の周知活動をどのようにしていくか、面着とZoom会議のどちらが良いか等、来年以降も継続して実施するかどうかを検討する上で、再度議論が必要と感じました。

最後に、今回参加された受講者全員が合格されることを祈念すると共に、NACSと一緒に活動できればと考えております。

総務委員 大塚秀樹

++ 『NACS 標準化セミナーin 中部大学』を開催しました！

～標準化って何だろう～「あなたの知らない標準化の世界」<標準化のたねを探そう!>のテーマで、「NACS 標準化セミナー2023 in 中部大学」を開催しました。今回のセミナーは、令和5年度経済産業省委託事業として、中部大学・名古屋市・NACS 中部支部のコラボレーションで開催しました。中部大学での標準化セミナーは、5年連続の開催となりましたが、今回は大学の講義方法に合わせて、4年ぶりの対面形式でのセミナーとなりました。

セミナーのねらいは、「標準化について学んできた幅広い知識を活用し、グループワークで更に理解を深め、標準化の重要性・必要性を学ぶ」とことと「消費者視点による標準化のたね探し、標準化することによる課題解決方法と期待される効果を検討する」とことの2点でした。

セミナー対象者は、中部大学経営情報学部で「経営環境」カリキュラム(標準化について学ぶ全15回のカリキュラム)を受講する2年生中心の95名でした。また、ファシリテーター兼コメンテーターとして、NACS 中部支部より8名が参加しました。

セミナーは、前半12月13日(水)11時15分から12時45分と、後半12月20日(水)11時15分から12時45分の各々90分で、2週連続2回完結にて、中部大学242A教室での開催となりました。

セミナープログラムは下記の内容であり、「経営環境」カリキュラムの2回分活用となりました。

※前半 12月13日(水) 11時15分～12時45分 (90分)

第1部……講義

- ① 「SDGs とエシカル消費」～目指す未来と消費生活～ …………… 講師：名古屋市 丹羽主査
- ② ～標準化って何だろう～「あなたの知らない標準化の世界」 …… 講師：NACS 西田担当

第2部……グループワーク

- ① 標準化のたね探しと解決策について……………ファシリテーターとしてNACSより6名参加
- ② グループ代表発表分の内容ブラッシュアップと発表内容作成

※後半 12月20日(水) 11時15分～12時45分 (90分)

第1部……グループ発表会の説明と発表準備

第2部……グループ代表発表・コメント・全体講評

- ① 各グループ代表者がグループの「標準化のたね」内容を順次発表……………(22グループ)
 - ② 発表内容へのコメントと評価……………コメンテーターとしてNACSより7名参加
- グループ発表では、コロナ禍の影響による新しい生活様式・消費者ニーズの変化に応じるための視点、デジタル化推進・AI活用の視点からの内容、たとえば「旅行者用救急対応アプリの導入」「食品工場衛生管理へのサーモグラフィの導入」「傘の置き忘れ防止アプリの導入」「農業での事故防止策の標準化」など、身近なモノ・コトに関して導入可能だと思われるものが多く提案されました。



セミナー前半グループワークの様子



グループ発表

事業委員長 西田 敏明

++ ADCS研究会 でんでん村様 ご訪問

ADCS研究会は10月28日(土)に12名で刈谷市にあるでんでん村様を訪問し、当施設を案内して下さった下村様からお話をお伺いしました。

でんでん村様は、安城市の不動産会社である株式会社ビレッジ開発様が新事業として株式会社デンソー様と協力して、昨年9月からミニトマトの水耕ハウス栽培を行っています。

ハウスは、株式会社デンソー様が長年自動車部品の技術で培ってきた空調システムを活用した次世代型セミクローズドハウスプロファームT-Cubeが5棟連なったもので、面積が2,000㎡あります。

事業概要やハウスの管理方法や選別の様子などをご説明いただいた後にハウスを見学させていただきました。ミニトマトの茎が自分の背丈よりも高いので電動台車も使って、パートの方が6人で収穫されているとのことでした。

このあたりには明治用水が通っていますが、周りが田んぼばかりで田んぼへの水の供給に合わせて冬は水が止まってしまうことなどもあり、井戸水を使っているそうです。ハウス内には日本マルハナバチが受粉のために飛び交っていました。

3基のセンサーで制御し、研究結果を反映して冷暖房を切り替え、CO2の濃度を管理し、強制換気によって一直線に風が流れるようにしていました。風を取り込む時は虫が入らないように工夫がされています。

これらの環境管理のためのデータを取得して、スマホでも確認できるようになっています。次世代型の農業でありながら、ハチの力も借りていて、テクノロジーと自然の力の融合を感じました。栄養を与える点滴ドリッパーはイスラエル製で日本では作れないと知り、農業の政策で制約が多いため他国に遅れてしまった部分があったことを目の当たりにしました。

選別機で、収穫したミニトマトの一部を選別していただきました。見せていただいたミニトマトは低糖度を選別されており、糖度はデータで見ると7度。ミニトマトとしては低めの値です。1個試食させていただきましたが、糖度は低めですが、とても甘くておいしいミニトマトでした。

農業の政策や規制緩和がなかなか進まないなど既存の仕組みの壁と後継者不足の問題がありますが、これらの次世代型農業が年数を重ねてビジネスモデルとして確立できれば、若者などに農業の魅力を感じてもらうための一歩になると感じました。



ADCS研究会

消費生活アドバイザー43期

櫻井 瑞恵

11月18日(土) オアシス21銀河の広場で開催された名古屋市消費生活フェア～なごやエシカルフェア☆2023～に、ADCS研究会は「食品ロスを減らそう！」をテーマに出展しました。

本来なら食べられるのに廃棄される「食品ロス」については、SDGsの中で2030年までに小売・消費レベルにおける食料廃棄半減の目標が掲げられていますが、その減少は近年鈍化しています。そこで食品ロスへの関心を持っていただくため、食品ロスの削減は最近の物価高に対する防衛策にもなることや、食品ロスを減らすための具体的なアイデア、消費期限と賞味期限の違い、フードドライブの活用など、消費生活に直結する内容の展示を行いました。

当日は寒い一日でしたが、8000人ももの来場者があり、身近なテーマということもあってかメンバーの説明に大変興味を持って聞いていただけた方が多かったのが印象的でした。一方で、消費期限と賞味期限の違いを意識されていない方も結構見られ、課題と感じました。

フェアでは行政、消費者団体に加え学校、事業者など各種団体からさまざまな展示があり、参加したADCS研究会のメンバー17名は、空き時間を活用して他のブースの見学を行い、大いに刺激を受け、メンバーにとって有意義な一日となりました。

＜以下、参加したADCS研究会メンバーの感想、コメント抜粋＞

- ★たくさんの方に来ていただきました。何人かは消費期限と賞味期限があることを知らない方もみえたので、この活動が有意義だったのかなと思います。
- ★小学校高学年の子は学校で教えてもらったのか賞味期限と消費期限を理解できていて、子どもと一緒に取り組める内容だと気づきました。
- ★食品ロス削減は関心の高いテーマでした。食品の余り物の持ち込み先を探していた人も多く、リーフレットが役立ちました。
- ★消費期限と賞味期限の区別がはっきりしない方、賞味期限後の食べられる期間に関心を持たれる方が思ったより多い印象でした。
- ★フェアに来る年齢層が高くなってきていると感じました。また女性と男性では食品ロス対策知識に大きな差がありそうです。
- ★結構来場者があると感じました。賞味期限と消費期限を意識していない方が多かった。開封後の期限を啓蒙したかったのですが、まだ先の話なのかと感じました。
- ★ブースを見に来てくださった方が、熱心に聞いてくださって、クイズにも楽しそうに参加してくださったのが嬉しかったです。
- ★展示ブースに足を運んでいただける方が多く、やりがいがあるフェアでした。
- ★スタンプラリーはブースに赴くきっかけとなりクイズラリーより参加が気軽で良かったと思いました。
- ★食品ロス削減は来場者の皆さんご自身も削減できていると思っている方が多いですが、気づかなかったこともあったので、今後のお役にたてると思います。
- ★今年は例年よりも展示・説明に興味を持って聞いてくれた方が多かった様な気がします。

ADCS研究会 吉田 哲也



++ 北陸分科会活動報告「今年度2回目の定例会」を実施しました

今年度から当分科会はリアルな活動に戻して定例会を開催していますが、2回目となる11月の定例会は富山市内で開催いたしました。

会員の皆さまもお聞きになったことがあると思いますが、富山には「越中富山の薬売り」「売薬さん」という言葉があるように、昔から「薬都」として知られています。

今回の定例会は温故知新をテーマとして企画しましたが、江戸時代に一世を風靡した「反魂丹」を今も製造販売している「池田屋安兵衛商店」で丸薬体験を見学し、また同時代の神通川に掛かっていた船橋（船を係留しておく場所）跡を訪ねたり、明治の初期に製造が始まったとされる「鱒の寿司」の店舗を訪問し、今も現役で活躍している木製の寿司製造機を見学したりするなど、富山の伝統を体感しました。

その後は一転現代的な工芸に触れることが出来る「富山市ガラス美術館」を訪問しましたが、ここは世界的建築家の隈研吾（くまけんご）氏が設計した建物で知られており、富山観光の名所となっています。[建築家の隈研吾の建築作品15選。話題のスタバや無印の窓の家など | デザインマガジン \(webdesignmagazine.net\)](#)

このように今回の定例会は江戸・明治期から現代までを一度で訪れ、テーマに沿った富山の再発見が出来ました。

当日は天気あまり良くなかったため、立山連峰の雄大な景色が見られなかったことが少々心残りとなりましたが、分科会会員からは「次回の定例会の楽しみに取っておきましょう！」との嬉しい発言もありました。

これからも当分科会では北陸3県の良さの再発見に繋がる定例会を企画し、多くの会員に参加して良かったと思われるよう活動して参りますので、北陸分科会はもちろん、中部支部のみなさま、奮ってご参加いただきますよう、よろしくお願いたします。

北陸分科会 代表 橘 宏和



やはりみんなでリアルに集う定例会は楽しいです。

富山市ガラス美術館(左)と池田屋安兵衛商店内(右)にて

11月26日(日)岐阜県恵那市の恵那文化センターで開催された全国発酵食品サミットに岐阜県分科会のメンバー6名が参加しました。

このイベントは発酵食品と発酵文化のすばらしさを全国に向けて発信することを目的に毎年全国各地で開催されており、今年で13回目を迎えます。

午前は発酵学者で有名な東京農業大学の小泉武夫名誉教授と俳優の財前直見さんのトークショーを聴講しました。トークショーでは、財前さん自らが家庭で作られた発酵食品が紹介されました。なかでも18種類の雑穀が入った「食べる甘酒」は腸内環境の改善やお肌の美容効果にも良いとのこととても興味を引きました。



ワークショップでは、納豆五平ホットサンドや柿酢を使った酢の物、お酢ミルクの飲み比べなどを体験しました。

屋外では発酵食品を集めたマルシェや地域の屋台などたくさんの発酵グルメがずらりと並んでおり、昼食に地元の五平餅や味噌味の焼きおにぎり、珍しい発酵熊汁そばなどを楽しみました。

イベント最後のしめくくりとして豪華賞品が当たる大抽選会に参加しました。6人中誰かひとりぐらいは当たるだろうと期待していましたが、結果だれも賞品を手にする事ができず残念でした。

今回のイベントを通して、改めて発酵食品の魅力や奥深さを感じることができとても有意義な一日となりました。

岐阜分科会 山田 潤子

当イベントの詳細はこちらからご覧いただけます。



[第13回全国発酵食品サミット in えな \(tabetoru.com\)](http://tabetoru.com)

